

# 旭川市民文化会館の整備の方向性について

旭川市教育委員会 社会教育部

## 1 はじめに

旭川市民文化会館は、1974年（昭和49年）のしゅん工から48年を迎える文化ホール施設です。道北圏において最大となる1,500以上の席数を有する大ホールと約300席の小ホールに加え、展示室・会議室等を備えており、市民の文化活動や全国規模の催事など、様々な目的で利用することができる施設であることから、芸術・文化活動の拠点として、旭川市民のみならず周辺地域の方々からも長く親しまれてきました。

一方で、建物や設備の老朽化が進んでおり、建物に関しては、内外の各所に劣化が見られるほか、現行の耐震基準に適合しておらず、大きな地震が発生した場合にホールの天井が落下するおそれがある等の課題を抱えています。また、設備に関しては、冷房や暖房設備本体など開館時から更新していない設備があるなど、突然、不具合や故障が発生するリスクが高まっています。

こうした状況から、平成26年度には大規模改修の実施に向け基本計画を策定し、基本設計を実施しましたが、当初想定された工事費（約24億円）から大幅に増額（約35億円）となったことや耐震対策の更なる確認と工事費の増額が見込まれたことから、工事内容及び手法も含め、再検討することとなりました。

その後、新庁舎の整備にあわせて、建替えの検討がなされるなどの経過もありましたが、建替えも含めた文化会館の整備については、市民意見を十分に聞き、時間をかけて検討することとし、以後、必要となる修繕を行いつつ、大規模改修における耐震対策や費用負担に関する調査を実施するとともに、文化団体・利用団体アンケートや市政モニター調査、市民向け見学会等を実施し、市民意見の収集を行ってきました。

そうした中、令和3年12月に小ホールのどんちょうが落下し、あわや大事故につながりかねない事態が発生するなど、できるだけ早期に抜本的改善を図らなければならない状況になっています。

この度、旭川市民文化会館の将来に向けた整備に関してこれまで検討してきた内容や今年度開催した旭川市民文化会館の在り方検討会での意見集約結果などを踏まえ、大規模改修か建替えかを中心に検討し、今後の整備の方向性について定めます。

## 2 旭川市民文化会館が抱える課題

### (1) 耐震性能の不足

会議室や楽屋等が所在する管理棟の建物とエレベーターのほか、大ホール・小ホール及びエントランスホールの吊り天井が、現行の耐震基準に適合していません。

### (2) 建物の老朽化

一部補修済みの箇所があるものの、屋上防水や外壁等の劣化による雨漏りや、ガラス等の劣化に伴う断熱性能の低下等が起こっています。また、ホールの座席や壁床等の内装材など、建物全体の老朽化が著しい状況にあります。

### (3) 設備の老朽化

冷房設備、暖房設備、給排水設備、電気設備や舞台機構設備など、館を支える設備の多くが耐用年数を大幅に超過しており、故障のリスクが高くなっていることに加え、一部設備においては既に部品の生産が終了しているなど、メンテナンス時の部品調達に苦慮しています。

### (4) 現代的な要求に沿っていない施設機能

トイレの不足、段差やスロープなどバリアフリー面の措置が不十分である点やホールの座席間隔など、主に観客側に関係する部分に加え、搬入経路や舞台上の安全な運用に係る部分、ホールの遮音性が低い点や冷暖房が部屋ごとに制御できない点など、主催者側に関係する部分についても、現代的な要求に沿った施設でない現状にあります。

### (5) 現総合庁舎と旭川市7条駐車場の影響

令和5年11月に現総合庁舎から新総合庁舎へ移転することにより、文化会館が現総合庁舎に送気している熱源設備が過剰になります。また、文化会館と同時に建設され、設備を共用している旭川市7条駐車場など周辺状況の変化に伴い、建物や設備の大幅な見直しが必要となる可能性があります。

## 3 整備の方向性に係る検討経過及び結果

### (1) 「旭川市民文化会館の在り方検討会」設置による意見集約

令和4年6月から11月の期間において、学識経験者や利用団体関係者、公募市民などで構成する「旭川市民文化会館の在り方検討会」を開催し、全5回の会議を通して、大規模改修と建替えの利点や課題などを整理し、それぞれの整備手法の理解を深めた上で、望ましい整備の方向性について意見集約を行いました。

○ 検討会で整理した大規模改修と建替えの比較評価

項目		大規模改修	建替え
費用	イニシャルコスト	35億円以上 (舞台機構の改修費は含まず)  ※ 費用は平成26年度に策定された旭川市民文化会館大規模改修基本設計での積算額であり、令和4年度現在の積算額ではない。	90～100億円以上
	ランニングコスト	建替えに比べ高額になりがち (建替えと同等にする場合、イニシャルコストが高額になる)	大規模改修に比べ、一般的に安価
場所の選択肢		現在地に限る	市内で選択可 (一定の敷地面積が必要)
使用可能年数		20年程度	80年程度(長期使用建物と位置付け、適切な予防保全を実施する場合)
基礎機能	ホール (座席数、座席の配置等)	・現面積内で調整するため、席間隔を広げる場合は、席数の減が必要 ・座席の配置は基本的に現状のまま	座席数及び座席の配置は、ある程度自由に設定可能
	バリアフリー	・新たにエレベーターを設置することで、小ホール・展示室等へ車椅子でアクセスすることが可能となる ・一定の段差解消は可能だが、急勾配等の全面解消など、構造上対応できない点も多い	現行のバリアフリー基準に適合した設計が可能となる
	トイレ	・一定の増設が可能だが現面積で調整するため、空間は狭くなる ・水道・電気工事が必要となるため、ウォシュレットの設置は困難	利用実態を踏まえた十分な数と広さを確保した整備が可能
	搬入車両スペース及び搬入路	一部改修可能だが、敷地面積が変わらないため、車両の取り回し等に課題が残る	敷地を確保した上で、安全かつ効率的な搬入車両の駐車スペース及び搬入路の形成が可能
付帯機能		・自由に使用できるオープンスペースの拡充には限界がある ・大小ホール・展示室・会議室などの大幅な配置変更は困難であり、新たな付帯機能の整備には制約がある	ホールの催事以外でも日常的に市民が訪れる施設として、オープンスペースを設けるなど、柔軟に付帯機能を検討することが可能
休館期間		1年～1年半	なし(現地建替えを除く)

## ○「旭川市民文化会館の在り方検討会」参加者からの意見

### ● 大規模改修に関する意見

- ・ 35 億円以上という費用に対して、使用可能な期間が 20 年程度しかなく、約 20 年後には建替えの必要が生じる。
- ・ 改修は、建物の強度は上昇するものの、寿命が伸びるものではない。仮に耐震改修を実施したとしても、改修後の建物を 50 年使えることにはならない。
- ・ 現状のホールの機能面やユニバーサルデザイン的な面から見ても、現代の要求に合ったものではない。
- ・ 物理的には耐用可能であり、もう少し延命はできなくもないが、建物の外側が既に決まっているため、会議室や展示室、そしてホールの性能といった、改修では解決し切れない課題が多数あり、機能的に耐え切れないところまできている。
- ・ 道北地域に代替可能な施設がないため、一定以上の規模の催事が、1 年～1 年半の間実施できなくなってしまう。
- ・ ホールという建物の性質上、将来的な用途転用の余地がなく、建替えを延期することのメリットも薄いため、大規模改修を実施する積極的な理由がない。

### ● 建替えに関する意見

- ・ 90～100 億円以上を要するとはいえ、70～80 年もつという点が大きい。
- ・ 費用をかけて建て替えるのであれば、夢のあるもの、子供たちに伝わっていくものを造っていただきたい。
- ・ 文化芸術として良いものに出会えるよう、音響等には最低限配慮すべき。
- ・ 1,000 人規模のホールという文化会館の存在感と、市民の必要性が近くなると良い。
- ・ 市民が施設を造るプロセスにしっかり入っていくということが大事。
- ・ 実際の使用者となる子供たちが使用したいと思えるような施設の建替えを想定し、準備していくことが必要。
- ・ 公会堂の扱いも考えた上で、建替えではないかと思う。
- ・ 今不満がある部分を現代的な性能にフィットさせることができ、さらに将来を見据えた仕様にできるだけでなく、人口減少などの変化を踏まえ、公共施設全体の効率化を考えた形も検討できるなど、大規模改修に比べて実施することのメリットがある。
- ・ 立地場所については、老朽化した施設やホテルなどの周辺施設の状況も考慮の上、検討してほしい。
- ・ 公共交通との接続や周辺環境等によって施設の在り方も変化すると思うので、施設単体としての機能だけでなく、立地が重要になる。
- ・ ホールは音楽や芸術やイベント等がメインになる施設であるが、市民の方々が催事に直接関係なくても利用できるような機会・環境を、ぜひ実現していただきたい。

### ● まとめ

**全体として「建替えの方が望ましい」との意見が多くを占め、大規模改修について積極的な意見はありませんでした。**

(2) 専門機関による評価

文化庁の委託を受け、(公社)全国公立文化施設協会が実施している「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援」により専門知識を持つ支援員の派遣を依頼し、舞台設備を中心に現状の施設状況を確認いただき、次のような意見が示されました。

○「劇場・音楽堂等への芸術文化活動支援 支援員の派遣」支援員からの意見

- 20～30年の延命化を目指すような「改修工事」は、築年数が70～80年の施設となり、現実的でない。
- 当面の間、現施設を使用できるよう必要な改修をし、その間に現代の仕様に合った新施設の建替えを検討するのが妥当である。

## 4 旭川市民文化会館の整備の方向性

(1) 整備の方向性

旭川市民文化会館の整備の方向性については、施設の現状や施設が抱える課題、検討会における意見集約結果や専門機関の評価を踏まえ、建替えを基本として検討を進めます。

ただし、施設の機能や規模、設置場所、財源など、整備に必要となる要素について今後精査しながら、さらに検討を進めていきます。

(2) 今後の予定

ホールの規模や会議室、展示室などの主に文化ホール機能をはじめ、市長部局とも連携しながら設置場所や複合化の可能性などの検討を行い、これらの基本的な考え方や方向性などについて、基本構想として取りまとめます。